

《京都》御所と離宮の葉(おり)



其の十六

— 修学院離宮 —

華やかな飾金具



修学院離宮 中離宮の客殿

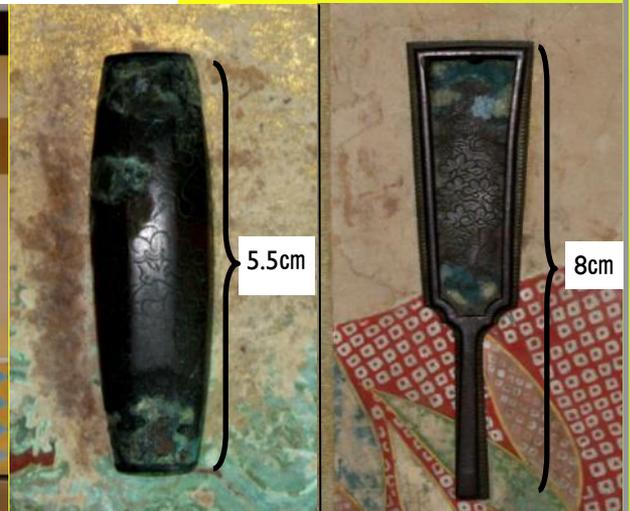


御所や離宮には、様々な意匠の金物があり、[葉其の八](#)では桂離宮の引き手を紹介しましたので、今回は修学院離宮にある引き手と釘隠を紹介します。

修学院離宮は、上離宮・中離宮・下離宮という三つの区画から成っており、今回紹介する金物は、中離宮のきやくてん客殿にあります。



客殿一の間の霞棚



引き手：ぶりぶり(子供の玩具)形と羽子板形



中離宮は元々、後水尾上皇の皇女光子内親王のために設けられた山荘てるこがあった場所で、現在そこには客殿と楽只軒らくしけんという建物があります。客殿は、東福門院の女院御所内にあった奥対面所を天和2年(1682)に移築し、それ以前からあった楽只軒と隣接し階段や縁で連絡しています。その一の間の霞棚([葉其の七](#)で紹介)には、ぶりぶり形(ぶりぶりは、棒材に車輪と紐をつけて引いて遊ぶ玩具で、一説に土をならす農耕具を真似たとされ、後に新年の祝儀物として扱われた。)のものや羽子板形の引き手があります。羽子板は地袋(棚の下部にある小襖・写真赤矢印)に、ぶりぶりはその上の三角の棚(地袋の上部の横長の小襖・写真青矢印)にあります。これらは七宝や彫刻が施された非常に繊細なものとなっています。



引き手:菊花形七宝三つ葉葵紋 観

他に一の間には、左の写真にある引き手があります。外側に菊の意匠があり、内側には東福門院が徳川家から嫁いだことに関連し、三つ葉葵の意匠があります。

右の写真の引き手は、二の間の襖に用いられているもので、尾長鳥の意匠となっています。尾長鳥は、襖を開ける方に向いているため、場所によって鳥の向きが異なります。



引き手:尾長鳥形 観



引き手:七宝扇面形 観

次に、左側の写真にある引き手は、二の間のもので、扇の意匠で、扇面には花びらに七宝が施してあり、その上かなめに要で留めた3本の骨があります。右側の写真にある引き手は、一の間の北側にある内仏間のもので、しょう四葉(四方に草花が広がる意匠)で、中央には、金地に雲を黒塗りで表現しています。



引き手:四葉円形 内

下の写真は、客殿の長押にある釘を隠すために用いられる金具です。左側のものは、一の間にあるもので、車に花が盛られた花車です(葉其の十で紹介)。右側のものは、二の間にあるもので、笹竹形の釘隠です。これも七宝が施されています。

中離宮客殿の金具は、七宝を施したり、吉祥を表す意匠や玩具など女性が好むような意匠が用いられ御殿を飾っています。それらは、江戸時代、宮中のみならず町人までも服飾や芸術面で影響を与えたとされる東福門院使用の建物にふさわしいものになっています。



釘隠:七宝花車形 観



釘隠:七宝笹竹形 観

— 修 学 院 離 宮 —

中離宮客殿一の間の霞棚



修学院離宮中離宮の客殿一の間北側に

は、天下の三棚の一つに数えられる霞棚かすみだながあります(他の棚は桂離宮の桂棚(葉其の一にて紹介)、三宝院の醍醐棚)。5枚の棚板が、霞がたなびいているかのように配置されています。棚の幅は、約290センチで、中央の一番長い棚板が144cm、その右上の一番短いものが75cm、板厚はそれぞれ2.5cmけやきで、櫟の板を使用しています。

棚の壁面には、金砂子を雲形に散らしたところに、色紙が貼られていて、「修学院八景」を題材に和歌と漢詩が1編ずつ詠まれています。和歌は公家の歌人などに、漢詩は五山の長老に詠ませたものです。

下記色紙は修学院八景の題材のひとつ「村路晴嵐」を桂離宮中書院などを増築された八条宮家二代智忠親王が詠んだものです。

なお現在霞棚を飾る色紙も含む障壁画は昭和47年に模写したもので、原品は別に保存しています。



村路晴嵐 中務卿智忠親王 夕あらし吹残してや山もとの雲よりさきに帰る里人 (京都事務所保存のものを撮影)

— 修 学 院 離 宮 —

なかりきゅう

いわとやま

ほうかほこ

中離宮の杉戸絵「岩戸山」「放下鉢」

観



京都事務所保存のものを撮影

修学院離宮の中離宮客殿は、東福門院きやくでん 和子(後水尾天皇の皇后)がお使いだった女とうふくもんいん 院御所奥御対面所を天和2年(1682)に移築てんな した建物です。

客殿から隣接する楽只軒らくしけんに通ずる西縁座敷にある杉戸絵に画かれているのは、毎年7月に行われる京都三大祭のひとつ祇園祭の山鉾いわたやまの「岩戸山」と「放下鉢」ほうかほこです。この裏側ふなほこには船鉾が画かれています。(現在は模写に入替え、原品は別に保存)

この杉戸絵の筆者は、かつて住吉具慶とさすみよしぐけい れてきましたが、近年の研究により狩野敦信あつのぶ (寿石)とされています。敦信は他にも客殿二間の襖絵「長谷寺の桜」などを画き、また江戸城本丸御殿松の廊下の障壁画「浜松に千鳥」を画いています。



これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、
宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。



<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3

宮内庁京都事務所 代表電話：075-211-1211

参観係直通電話：075-211-1215

其の五：平成25年7月31日発行

次回の発行は10月頃を予定しています。

修学院離宮で運行する船鉾

京都の御所・離宮には風景、花鳥、古典芸能、中国の故事、風俗等、様々な題材が用いられた障壁画があり、修学院の中離宮客殿には、京都の夏の風物詩である祇園祭を彩る山鉾を描いた杉戸絵があります。[栞其の五](#)で「岩戸山」、「放下鉾」についてご紹介しておりますが、今回は、岩戸山と放下鉾の裏面に描かれている「船鉾」をご紹介します。



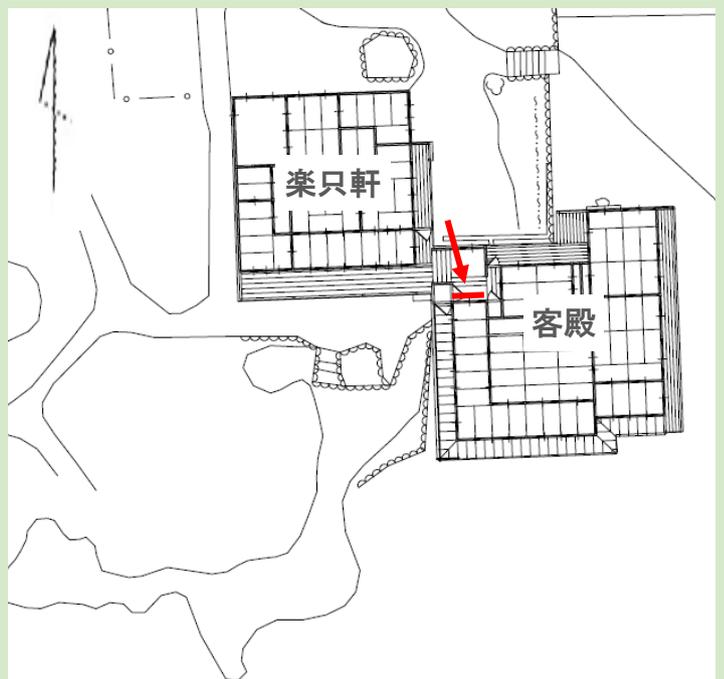
船鉾（模写）

◆ 船鉾

「船鉾」（写真：上段、原品は収蔵施設で保存）を画いた杉戸は、楽只軒と客殿をつなぐ廊下に埋められ、ひっそりと運行されています。

この客殿は、天和2年（1682）に東福門院（後水尾上皇の皇后）のお住まいであった女院御所の奥御対面所を移築したものです。

祇園祭では、前祭と後祭それぞれ別々の船形の鉾が運行されます。前祭の鉾は「船鉾」、後祭の鉾は「大船鉾」として、また、船鉾は「出陣の船鉾」、大船鉾は「凱旋の船鉾」とも呼ばれていました。神功皇后の外征説話を基に神功皇后、龍神あずみのいそら安曇磯良、住吉明神、鹿島明神が御神体として祀られています。



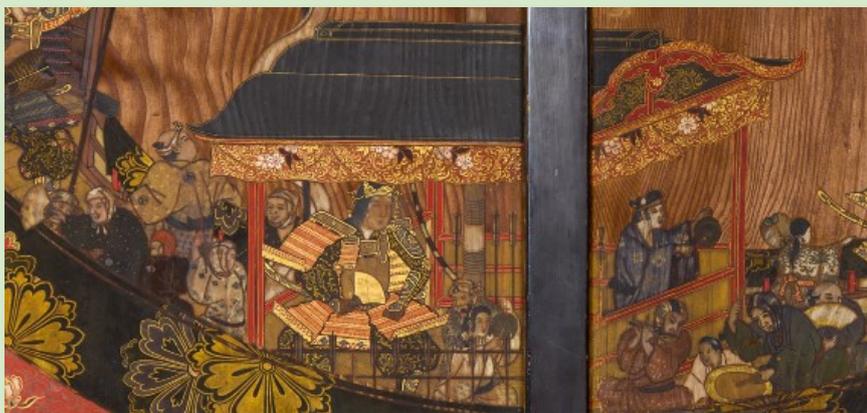


② 住吉明神（左）と龍神安曇磯良（右）



③ 鹿島明神

狩野敦信(寿石) 作（原品）



① 神功皇后（中央）と囃子方

客殿の杉戸には前祭の船鉾が画かれ、船鉾の上には、中央に陣取り武装した神功皇后(写真：左下)とその周囲に扇や笛、太鼓、鉦を持つ囃子方、先端で住吉明神と潮の満ち引きを操る満干珠を捧げ持つ龍神安曇磯良(写真：右下)、後部には右手に軍配、左手に薙刀を持つ鹿島明神(写真：右上)が画かれています。2面にわたって豪快に画かれる杉戸絵ですが、船の意匠や神功皇后を始めとする御神体や人物はとてつ繊細に表現されています。祭りを楽しむ大衆は描かれていませんが、賑やかな声が聞こえてく

るような障壁画です。

また、神功皇后は、応神天皇を宿しながらも海を渡り、凱旋後に応神天皇を無事に出産したと伝えられ、船鉾は、航海と安産に御利益があると言われています。

明治天皇がお生まれになる直前には、鉾町から神功皇后の神面がもたらされ、御産所正室の床の間に櫃のまま祀られました。生母である中山慶子は、これを毎日、拝したと記録されています。

— 京都御所・修学院離宮 —

はなぐるま 花車



さきに輿について触れましたが、ここでは車を画いた杉戸について解説します。

京都御所には、籠に大きく盛った花を載せる「花車」を主題にした杉戸絵が2件あり、そのうちのひとつは吉田公均こうきんが画いた「春夏花車図」です。

(写真: 左)

荷台の竹籠には牡丹や藤など春と夏の草花がながえたくさん盛られており、轆ながえ (荷台から2本平行に前方へ伸びた棒)の先に渡した横木のくびき しじ軛くびきは榻しじと呼ばれる台に載せられ、その轆や榻などには装飾が施された様子が画かれています。(詳細写真: 中段)



この杉戸は、元々御学問所の北御縁座敷きたごえんざしきにありましたが、御学問所と御常御殿をつなぐ奥新廊下 (写真: 下段左側) が、第二次世界大戦に伴う建物疎開で取り払われたため、杉戸としての役目がなくなり、現在は収蔵庫にて保存しています。



御学問所付近の写真(京都事務所保有のガラス乾板より)



現在の御学問所付近の写真

うまひこ おはなごてん

もうひとつの杉戸は、星野馬彦が御花御殿の東御縁座敷に「花車」と題し、朝顔や菊など夏と秋の様々な草花が盛られた籠を乗せた車を画いています。(写真: 右側)



御花御殿



杉戸の他にも花車の意匠の飾り金物があります。

中段右側の写真の飾り金物は、修学院離宮の中離宮にある客殿の釘隠で、車には牡丹、椿や菖蒲が七宝で彩られています。(客殿は天和2年(1682)に東福門院御所の奥対面所を移築したものです)

くぎかくし

しっぽう



修学院離宮・中離宮 客殿



京都御所の収蔵庫で保存している釘隠

下の写真の襖絵は「花車」とは題されてはいませんが、[葉其](#)の二で紹介した京都御所若宮御殿の「唐子遊」(画: 栢友篤)にも、子供が引いている大きな花車が画かれています。

からこあそび

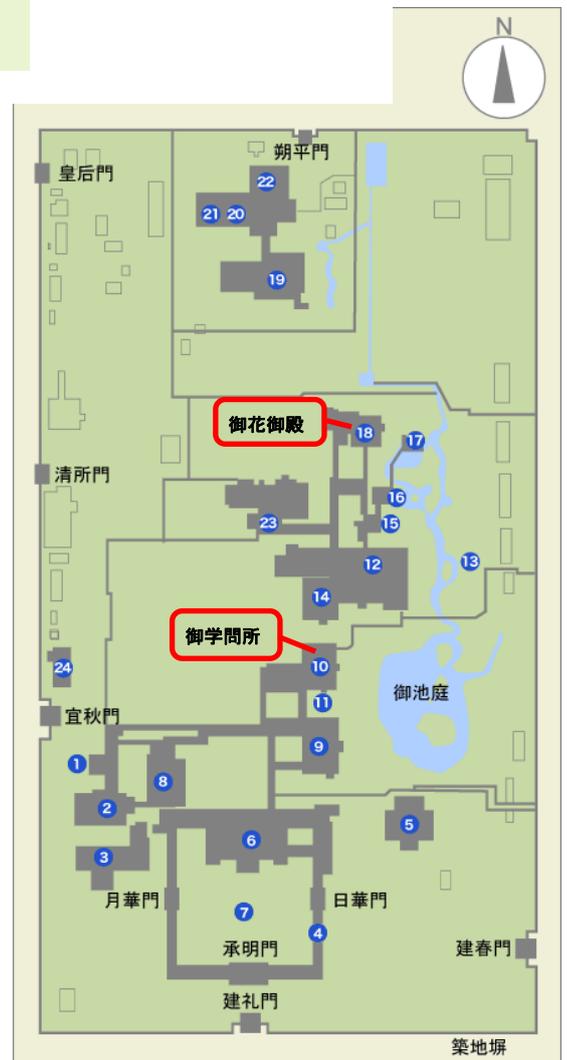
かしわゆりどく



修学院離宮 中離宮案内図



京都御所案内図



- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清凉殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所

観マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

通マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所
代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215